
はじめに

本分冊『「懐かしい地元」の追想』は、知内の写真編と年表編です。

【写真編】については、知内町郷土資料館が収蔵している写真のほか、これまで町内で発行された記念誌等で掲載された写真、および『広報しりうち』で使用された写真や個人の方からお借りした写真の中から精査して掲載いたしました。紙面の関係上限られた枚数にならざるをえませんが、過去の記憶がよみがえることができたという言葉を聞くことができれば幸いです。

【年表編】については、これまで知内の始まりは「大野土佐日記」に依拠して、荒木大学が知内に渡って来たといわれている 1205（元久 2）年から始まるのが普通でした。ところが砂金掘りを扱った書籍の記述などで、荒木大学が建久年間（1190～1199）に渡ってきたと誤用されている例がありました。このような記述の訂正も考慮しつつ、今回の年表では、雷公神社宮司大野家の祖先のことにふれている 1192（建久 3）年から始めました。

また、知内町が、自治制施行 123 年及び開基 789 年のメモリアルイヤー記念事業の一つとして 1995（平成 7）年に発行した、能代久司編纂『知内町史記年表抄—知内の歩み』（以下『知内の歩み』）が、1994 年までの本町の出来事について詳細にふれています。今回の【年表編】は、分量の制約もあり、1994 年までは『知内の歩み』から基本的な項目を抜粋するとともに、『知内の歩み』の誤記の訂正と、記載されていなかった事項の補足を行いました。そして、1995（平成 7）年からはできるだけ多くの事項を採りあげることになりました。

「読めて調べることのできる年表」を目指し、採りあげた項目の出典が判明しているものについては、極力表内に挙げるようにしています。

写真編・年表編とも、今後大いに活用されることを願っております。

[高橋豊彦]